

第2回 学習指導委員会報告

平成26年 7月31日
於 極地研究所 南極・北極科学館

1 出席者（12名）

- ・会 長 田中 史人（八王子市立松木中学校長）
- ・委員長 大熊 一正（八王子市立宮上中学校長）
- ・副委員長 木名瀬伸博（新宿区立新宿中学校副校長）
- ・新宿区立四谷中学校 花村 玲子
- ・足立区立第十三中学校 竹内美知子
- ・江戸川区立篠崎第二中学校 翠川 哲也
- ・墨田区立墨田中学校 石井 宏明
- ・豊島区立西池袋中学校 長谷川 清香
- ・小平市立小平第五中学校 西尾 崇
- ・調布市立第三中学校 星 奈留水
- ・北区立明桜中学校 中山 恵美
- ・八王子市立由木中学校 高橋 史祐

2 施設見学について

- ・14時30分から15時30分まで実施
- ・南極と北極の調査研究の実際や、現在行われているプロジェクト、研究の成果の展示を見る。
- ・2010年に観測されたオーロラの全天映像を鑑賞

3 意見交換

- 科学的思考力を育成することについては、ワークシート等で工夫しているが、自分から考え、それを発表するところまでいかない。まずは形式に基づいて考えさせることも重要ではないか。
- イオン、遺伝の他に、放射線の指導が難しい。また、数学的な力を必要とする単元も生徒が苦手としている。
- 電気では、特に電圧の概念を教えることに苦慮している。
- 天体・太陽・月の動きをどうとらえさせるか。図などで工夫したり、模型を使ったりしているが…。また、実際の観測が天候に左右されるため、必ずしも予定通りにはいかない。
- 1年生の指導内容が大変多い。場合によっては2年生へ残ってしまうこともある。小中の連携を図り、小学校の教科書を確認して、小学校で学習した内容は簡略化する工夫をしている学校もある。
- 都立高等学校の入試なども出題形式が多様化している。生徒の力をどのように把握するか難しい。
- 同一学年を複数の教員で担当する場合、生徒への指導が徹底できない面が出てきてしまう。相互の連携がとても重要である。

4 次回について

- 10月 中間考査時期（初旬から中旬）を目安に実施、新宿中学校で実施予定。